

神奈川県考古学会の設立の経緯について

小川 裕久

「神奈川県考古学会」が平成3年4月22日に設立されるまでの流れとして、「神奈川県遺跡調査・研究発表会」を抜きにしては語るができない。

「神奈川県遺跡調査・研究発表会」（以下「発表会」という）の発足の主旨は、県内に在住する考古学研究者、研究団体が従来ともすれば孤立する傾向にあったので、相互に交流をもつことで情報交換と親睦を図ることを目的としたもので、昭和51年にこの発表会を推進する母体として、県内在住の研究者・研究団体代表者よりなる準備委員会（研究者8名、研究団体8団体）が設けられ、神奈川県遺跡調査・研究発表会準備委員会（以下「準備委員会」という）が実施責任団体となって、第1回発表会を昭和52年に横浜市の開港記念会館で開催した。また事務局については、発意団体である「神奈川考古同人会」がなり、運営経費を一時立て替えて、発表要旨売り上げなどから返却を行う方式で行ってきた。しかし、横浜での第3回を実施した際に、運営資金、開催場所など危惧していた点が問題となった。

以来、この発表会は「準備委員会」という名の下で、県内各地で活躍されている方々の協力を得ながら持ち回りで開催してきたものの、運営母体の組織も明確でなく、またその運営のあり方などが開催のつど問題となっていたが、いつも問題点の解決は先送りされてきた。

平成元年の第13回川崎発表会を迎えた頃、次の開催が危ぶまれる事態になるとともに、いままで先送りされてきた問題を解決すべく、「準備委員会」のなかに6名からなる「遺跡調査・研究発表会要綱作成検討委員会」を設け、このメンバーで基本的な考え方を討議し方向性を探ることとなった。そこではこの発表会を今後も恒常的に運営して行くには、抜本的な改善を図り、「神奈川県考古学会（仮称）」のような組織をつくるのが急務であるとの方向性が打ち出された。また、相模原市での第14回発表会も、地元の研究者などの尽力で開催できる方向がみえてきたなかで、平成2年5月19日の発表会の際に、「準備委員会」の会議で、「神奈川県考古学会（仮称）」設立を前提とした「発起人会」の設立が提案され、発足させる方向となった。

平成2年6月30日には、「神奈川県考古学会（仮称）」設立のために、発起人関係者への発起人会（準備委員会委員及び要綱作成検討委員会で構成）の設立の概要について説明会を持ち、日野一郎氏を発起人代表に選任した。

赤星直忠、伊東秀吉、井上義弘、大三輪龍彦、岡本 勇、小川裕久、金子皓彦、神澤勇一、小出義治、小宮恒雄、杉山博久、寺田兼方、日野一郎、持田春吉、村田文夫（以上、神奈川県遺跡調査・研究発表準備委員会）

伊藤 郭、織笠 昭、川口徳治朗、白石浩之、
曾根博明、土井永好（以上、神奈川県遺跡調査・
研究発表会要綱作成検討委員会）

「神奈川県考古学会（仮称）は、広く考古学等
に関する調査・研究・保存及び情報の公開・交換
をもとに会員の親睦を図る機関」として設立する
ためには、多くの方の参加を得る必要があること
から、第一線で活躍している県内在住の日本考古
学協会会員、県市町村の文化財保護行政担当職員
ならびに博物館施設等の職員、県内の大学の考古
学関係職員、考古学者、考古学研究者、調査団体
の団長などの方々への説明会を平成2年8月20日
に開催し、協力を要請し、90名近い出席をえて賛
同を得ることができた。

平成3年3月3日には設立総会へ向けての最終
の発起人会を開催し、いままで検討してきた点に
ついての全ての確認を行った。

その後、「神奈川県考古学会」設立総会を平成
3年4月27日に横浜市開港記念会館において開催
し、ここに「神奈川県遺跡調査・研究発表会」の
事業も引き継がれ、ようやく新しい一歩を歩き出
したわけである。

なお設立当初の「神奈川県考古学会」の事業概
要は次のとおりである。

役員19名（会長日野一郎、副会長小出義治）、
監事2名

事業計画として、催事は①総会、②役員会、③
遺跡調査・研究発表会、④講演会、⑤見学会など
の事業を行うとともに、①考古学会誌、②連絡誌、
③遺跡調査・研究発表会の発表要旨の刊行が計画
された。

「神奈川県遺跡調査・研究発表会」も第15回か
ら神奈川県考古学会に引き継がれて、今年度で第
25回目を迎えようとしており、四半世紀の歴史を
持つことになる。

神奈川県考古学会の運営については試行錯誤の
面もいろいろあったが、そのつど役員協議の
もとで進められ、平成13年度総会において、①役
員会の役割変更、②幹事会の設置、③役員再任
に関する期限の設定、④会長・副会長の選任方法
の改正、⑤担当委員会の名称変更と組織の改編、
⑥役員の大規模な改選など、会の運営に関する機構
改革案などが審議・了承され、今後の進め方が示
されたことにより、さらに発展することを願うも
のである。



平成13年度総会の報告

平成13年度神奈川県考古学会総会が6月3日
（日）13時よりかながわ県民センターで約100名の
会員参加のもと開催されました。寺田会長挨拶の
のち、会長を議長に選出し、議事に入りました。
今回は先般より課題となっていた機構改革につい
てが議事の主題となり、会発足以来5期10年幹事
を勤められた多くの方が退任されました。前年度
の決算までは小川・村田総務担当幹事および織笠
会計担当幹事から報告が、今年度については村澤・
伊丹が説明いたしました。審議の結果、前年度報
告については承認され、今年度案についても了承
されました。また退任される幹事に会場から労い
の拍手が送られました。伊東副会長の閉会挨拶の
のち、かながわ考古トピックス2001を開催し、盛
況のうちに終了しました。なおトピックスの講師
は次の方々でした。

旧石器・縄文時代：諏訪間順 / 弥生・古墳時代：
西川修一 / 古代：岡本孝之 / 中・近世：松尾
宣方

議事1 平成12年度事業報告

1. 平成12年度総会の開催 平成12年6月3日(土)、かながわ県民センターにて開催。内容は平成11年度事業報告ならびに会計報告、平成12年度事業計画案ならびに収支予算案、かながわ考古トピックス2000の開催。参加者は約60名。

2. 役員会の開催 原則奇数月の第三水曜日で次のとおり開催しました。

第1回 平成12年5月17日(水)県立歴史博物館

第2回 同年5月27日(土)県立埋蔵文化財センター

第3回 同年7月19日(水)かながわ労働プラザ

第4回 同年9月20日(水)かながわ労働プラザ

第5回 同年11月15日(水)かながわ県民センター

第6回 平成13年1月17日(水)かながわ県民センター

第7回 同年3月21日(水)かながわ県民センター
臨時総務会 平成12年9月8日(金)かながわ県民センター

臨時総務会 平成12年12月16日(土)県立埋蔵文化財センター

3. 遺跡調査・研究発表会の開催 第24回を平成12年10月1日(日)に鶴見大学会館において神奈川県考古学会と鶴見大学が主催して実施しました。10遺跡の報告と研究発表2件を行い、特別講演は江坂輝彌慶応大学名誉教授に「神奈川県下貝塚調査の思い出」を語っていただいた。参加者は約300名にのぼった。

4. 研究誌『考古論叢 神奈河』第8・9集を『日野一郎先生追悼記念号』(平成12年10月1日刊)および『岡本勇先生追悼記念号』(平成13年2月28日刊)として刊行した。

5. 連絡誌「考古かながわ」の刊行 第19・20号を平成12年8月31日・平成13年3月31日に刊行しました。

6. 考古学講座 講座の開催としては「相模野旧石器編年の到達点」を平成13年3月11日(日)にか

ながわ県民センターホールにて行いました。参加者は約150名で熱のこもった議論が戦わされました。また考古学講座成果集の刊行として『かながわの古代寺院』を平成13年3月11日に刊行しました。

7. 遺跡見学会 第1回は平成12年5月13日(土)に鎌倉市の建長寺で行いました。ここでは伽藍指図と合致する法塔跡の発掘調査現場を見学させていただきました。参加者は45名でした。第2回は平成13年2月4日(日)に群馬県の史跡岩宿遺跡・笠懸野文化資料館を訪れました。ここは1949年、日本における旧石器時代の存在を初めて立証した遺跡として著名です。参加者は45名でした。

議事2 平成12年度収支決算報告

別表のとおりです。市川規平・金子皓彦両監事により書類を厳正に監査していただき、適正に処理されていることを確認していただきました。

議事3 神奈川県考古学会の機構改革案

〔提案理由〕本会は発足してから10年を数え、その間多くの実績を上げてきているが、会の運営組織として見直すべき点が出てきているのが現状である。今後の会の円滑な運営を図るために次の改革案を提案する。

1. 役員会等の機構改革

(1) 役員会

〔改正の事由〕従来は、会長、副会長、幹事30名、監事2名の全体会議として、隔月に会の運営事項全般について協議してきたが、今後はより円滑な運営をおこなうために、会の基本的な事項について審議する機関とする。

〔改正案〕・会則 第5条3号の幹事を役員と名称変更する。・名称 役員会の名称は現状のままとする。・構成 現状のままとする。・役割 会の基本的な事項について審議する。

(2) 幹事会（仮称）の新設

〔改正の事由〕会長、副会長、総務部会、各担当の長で構成する「幹事会」（仮称）を設けることにより、事業別の担当制度の強化と事業の円滑な運営を図る。

〔改正案〕・役員会のもとに幹事会（仮称）を設置する。・名称 幹事会（仮称）とする。・構成 会長、副会長、総務部会、各担当の長とする。・役割 会務に係わる事項を審議し、執行する。

(3) 担当委員会の名称変更及び組織の改編

〔改正の事由〕事務局の位置づけを明確にするため。

〔改正案〕・担当委員会を担当とする。・会計を総務部会（総務のみ部会とする）に合併する。・総務部会が事務局となる。

2. 会長・副会長の選任

〔改正の事由〕現行では、会長・副会長の選任も幹事の中から互選で選している。今回、役員任期限定の提案によって、任期満了になった場合はその職に留まれないケースが生ずる。

〔改正案〕会長・副会長は役員の中から互選するのではなく、会員の中から役員会で推薦し、総会で承認を得る方式とする。

3. 幹事・監事の選任

〔改正の事由〕幹事の再任には、一定の期間を定めることにより、会の活性化を図るとともに、多くの会員に会の運営に参加する機会をつくるため。

〔改正案〕・再任の任期を三期6年までとする。ただし、経過措置を設ける（総会了承事項とする）。
五期目の役員…退任 三期目の役員…あと一期継続を妨げない 二期目の役員…あと二期継続を妨げない 一期目の役員…あと二期継続を妨げない

・その後一期2年以上経過した場合は、選任の候補者となる。

4. 事務局の設置場所の変更

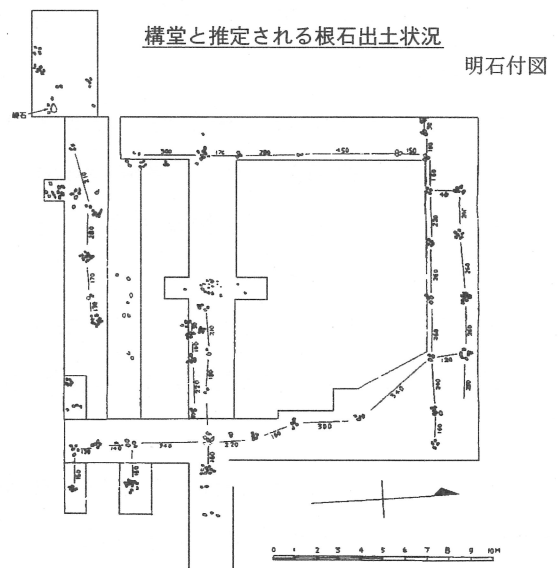
・会長宅に置く。

議事 4 会則の改正案

〔改正案〕

条	現 行	改 正 案
第5条 (3) 3	(役員の構成) ・幹事 30名以内	・役員 30名以内
	・会長及び副会長は、幹事の中から互選し、総会の承認を得る。	・会長及び副会長は、 <u>会員の中から役員会で推薦し、総会の承認を得る。</u>
第6条 3	(役員の構成) ・幹事は、 <u>役員会を構成し、協議する。</u>	・役員は、 <u>役員会ならびに幹事会を構成し、協議する。</u>
第7条	(役員の任期) ・役員の任期は、一期2年とする。 ただし、再任を妨げないものとする。	・役員の任期は、一期2年とする。 ただし、再任を妨げないものとする。 ・(1) <u>再任の任期は三期6年までとする。</u> <u>ただし、その後、一期2年以上を経れば選任を妨げない。</u>
第8条 3	(役員会) ・役員会は、会長、副会長、 <u>幹事をもって構成する。</u>	・役員会は、会長、副会長、 <u>役員をもって構成する。</u>
第9条 (新)		(幹事会) ・幹事会は、 <u>会務に係わる事項について審議し、執行する。</u> ・2 <u>幹事会は、必要に応じて開催する。</u> ・3 <u>幹事会は、会長、副会長、総務部会、各担当の長で構成する。</u>
※第9条の新設により、会則の条文は以下一号ずつ繰り下がる。 第9条→第10条、第10条→第11条、第11条→第12条、第12条→第13条、 第13条→第14条、第14条→第15条、第15条→第16条、第16条→第17条、 第17条→第18条、第18条→第19条、第19条→第20条		
第10条	(会議) ・会議は、 <u>総会及び役員会とする。</u>	第11条 ・会議は、 <u>総会、役員会及び幹事会とする。</u>

附 則 本会則は、平成13年6月3日から施行する。



議事5 役員の改選について

会長・副会長の選出案

会 長	寺田 兼方
副 会 長	伊東 秀吉

任期満了に伴う平成13・14年度役員並びに監事の選出 ○は新任

役 員 候 補 者			監事候補者
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
明石 新	加藤 緑	田代 昭夫	市川 規平
天野 賢一	○河野眞知郎	○服部 隆博	○伊藤 郭
安藤 文一	○小林 康幸	降矢 順子	
伊丹 徹	近藤 英夫	松尾 宣方	
大塚 眞弘	小池 聡	村澤 正弘	
大坪 宣雄	小林 義典	○依田 亮一	
○大上 周三	鈴木 重信	○渡辺 務	
○大村 浩司	○須田 英一	○若松美智子	
岡本 孝之	諏訪間 順		
加藤 信夫	田村 良照		

議事6 平成13年度事業計画案

1. 平成13年度総会の開催 平成13年度神奈川県考古学会総会を平成13年6月3日(日)かながわ県民センターで開催し、平成12年度事業報告ならびに会計報告、県考古学会の機構改革案について、会則の改正について、役員の改選について、平成13年度事業計画案ならびに収支予算案、その他について審議し、かながわ考古トピックス2001を開催する。

2. 役員会・幹事会の開催 原則として幹事会は奇数月の第三水曜日に開催、役員会は年2回以上開催する。なお改正前の役員会は下記のとおり実施した。

第1回 平成13年5月15日(水) かながわ労働プラザ

第2回 同5月26日(土) 県立埋蔵文化財センター

3. 遺跡調査・研究発表会 第25回を平成13年10月13日(土)平塚市中央公民館大ホールにて神奈川県教育委員会・平塚市教育委員会の後援を得て実施する。記念講演は苅谷俊介氏にお願いする。

4. 研究誌『考古論叢 神奈河』第10集を平成14年3月に刊行する。

5. 連絡誌「考古かながわ」の刊行 今年から年3回の刊行に踏み切る。第21号は平成13年8月下

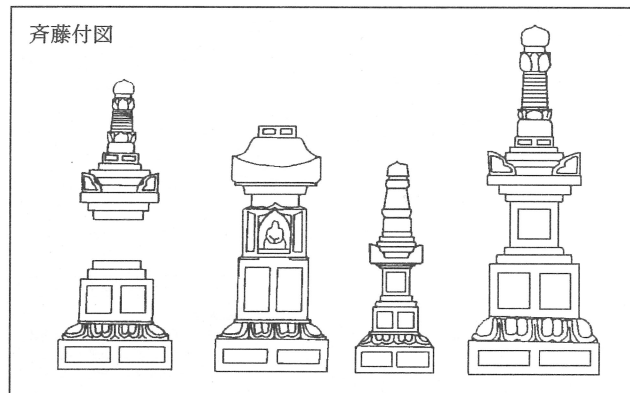
旬刊行する。

6. 考古学講座 講座の開催は平成14年2～3月に横浜市内で開催し、考古学講座成果集も平成14年3月に刊行する。

7. 遺跡見学会 第1回は平成13年10月、第2回は平成14年2月に実施する予定。

議事7 平成13年度収支予算案

別表のとおり提示し承認を得た



【役員会】

第6期(2001・2002年度)役員の担当は臨時役員会(6月6日)の結果次のようになりました。

(◎は担当の長、総務の()は分担と担当する部会)

顧 問 小出義治

会 長 寺田兼方

副会長 伊東秀吉

監 事 市川規平・伊藤 郭

総 務 ◎大上周三(事務局長・連絡誌)・伊丹徹(総務・会誌)・小林康幸(総務・見学会)・村澤正弘(会計・発表会)・服部隆博(会計・講座)

会 誌 ◎田村良照・大塚眞弘・諏訪間順・依田亮一

連絡誌 ◎岡本孝之・近藤英夫・安藤文一・小林義典・渡辺 務

講 座 ◎大坪宣雄・明石 新・鈴木重信・加藤緑・河野眞知郎

見学会 ◎松尾宣方・降矢順子・田代昭夫・須田英一・若松美智子

発表会 ◎加藤信夫・天野賢一・小池 聡・大村浩司

議事 2

平成12年度収支決算報告

(収入)				(単位円)	
節	予算額	決算額	比較増減△	説	明
会費	1,545,000	1,265,000	△ 280,000	12年度会費	@3,000×273名=819,000
				13年度会費	@3,000×54名=162,000
				一部	@2,000×1名=2,000
				旧年度未納分	@3,000×94名=282,000
機関誌等 売り上げ	1,490,000	1,564,800	74,800	発表要旨	306,000
				内訳 会 員	@500×1部=500
					@700×3部=2,100
					@800×134部=107,200
				一 般	@1,000×1部=1,000
					@1,500×108部=162,000
				委託販売	
					@1,000×0.8×4部=3,200
					@1,500×0.8×25部=30,000
				考古論叢	444,800
				内訳 会 員	@1,800×6部=10,800
					@1,500×66部=99,000
				一 般	@2,500×34部=85,000
				委託販売	
					@2,500×0.8×125部=250,000
				考古学講座要旨	810,500
				内訳 会 員	@100×17部=1,700
					@500×159部=79,500
					@700×32部=22,400
					@800×105部=84,000
				一 般	@400×26部=10,400
					@1,000×61部=61,000
					@1,500×125部=187,500
				委託販売	
					@400×0.8×20部=6,400
					@1,000×0.8×330部=264,000
					@1,500×0.8×78部=93,600
				トピックス2000	3,500
				内訳 会 員	@100×6部=600
				一 般	@300×8部=2,400
					@500×1部=500
積立金	1,000,000	1,000,000	0	考古論叢刊行準備金	
雑収入	9,360	380,462	371,102	預金利子	197,982
				送料収入(切手代)	480
				見学会参加費	@4,000×44名=176,000
				会場費	@500×12件=6,000
繰越金	1,418,640	1,418,640	0		
合 計	5,463,000	5,628,902	165,902		

(支出)				(単位円)	
節	予算額	決算額	比較増減△	説	明
会議費	125,000	122,300	△ 2,700	会議資料代	92,650
				会場借り上げ	22,520
				会議費	7,130
会誌発行	3,290,000	2,152,412	△ 1,137,588	考古かながわ19;20印刷代	105,000
				考古論叢第8;9集印刷代	1,898,400
				原稿謝礼	10,000
				発送・連絡費	139,012
普及啓発	112,000	193,040	81,040	講師謝礼	28,000
				資料印刷代	1,960
				発送・連絡費	22,230
				保険料	9,400
発表会	500,000	446,266	△ 53,734	交通・入館料	131,450
				発表要旨印刷代	298,200
				会場借り上げ	3,420
				講師謝礼	40,000
考古学講座	480,000	566,741	86,741	設営代	104,646
				会場借り上げ	23,040
				会議費	4,846
				要旨印刷代	357,000
				記録集印刷代	147,000
				発送・連絡費	22,105
事務局費	450,000	248,089	△ 201,911	設営代	12,750
				賞金	168,900
				消耗品代	16,483
				通信費	31,330
				雑費	31,376
予備費	506,000	0	△ 506,000		
合 計	5,463,000	3,728,848	△ 1,734,152		

会計監査報告

平成12年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成13年5月8日 監事 市川規平 印
金子皓彦 印

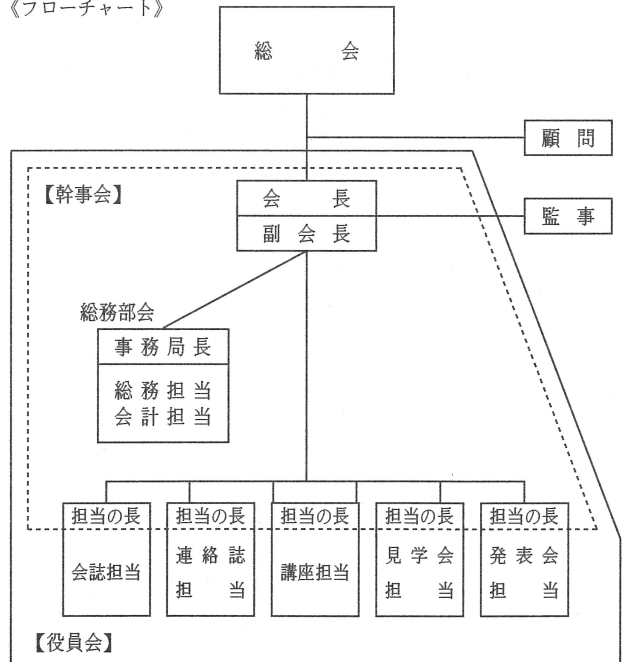
議事 7

平成13年度収支予算案

(収入)				(単位円)	
節	予算額	前年度予算額	比較増減△	説	明
会費	1,395,000	1,545,000	150,000	13年度会費	@3,000×408名=1,224,000
				旧年度未納分	@3,000×57名=171,000
機関誌等 売り上げ	1,000,000	1,490,000	490,000	発表要旨、考古論叢、考古学講座要旨 等売り上げ	
積立金	0	1,000,000	1,000,000	考古論叢印刷費	
雑収入	4,946	9,360	4,414		
繰越金	1,900,054	1,418,640	△ 481,414		
合 計	4,300,000	5,463,000	1,163,000		

(支出)				(単位円)	
節	予算額	前年度予算額	比較増減△	説	明
会議費	150,000	125,000	△ 25,000	会議資料代	100,000
				会場借り上げ	50,000
会誌発行	1,430,000	3,290,000	1,860,000	考古かながわ21~23印刷代	150,000
				考古論叢10集印刷代	1,100,000
				原稿謝礼	20,000
				発送・連絡費	160,000
普及啓発	150,000	112,000	△ 38,000	講師謝礼	40,000
				会場借り上げ	10,000
				会議費	10,000
				資料印刷代	10,000
				発送・連絡費	50,000
発表会	660,000	500,000	△ 160,000	保険料	30,000
				発表要旨印刷代	350,000
				資料・案内印刷代	100,000
				会場借り上げ	30,000
				講師謝礼	40,000
考古学講座	680,000	480,000	△ 200,000	設営代	140,000
				講師謝礼	30,000
				会場借り上げ	30,000
				会議費	10,000
				資料印刷代	10,000
				要旨印刷代	360,000
考古学講座				記録集印刷代	150,000
				発送・連絡費	50,000
				設営代	40,000
事務局費	370,000	450,000	80,000	賞金	200,000
				消耗品代	50,000
				発送・連絡費	80,000
				雑費	40,000
予備費	860,000	506,000	△ 354,000		
合 計	4,300,000	5,463,000	1,163,000		

《フローチャート》



考古論叢神奈河第8集 論文展望

平塚市四之宮所在の「下ノ郷廃寺跡」の再検討

明石新・若林勝司

平塚の四之宮に古代の寺院があったとする日野一郎先生の、武相学園考古部『昭和37年考古学部活動報告書』「平塚市下ノ郷古代寺院跡」を入手した明石は氏の長年の恩恵に報いるためにも、何とか世にその成果を認めてもらいたいと考え、若林勝司氏と分析し再検討することにした。分析にあたっては、あくまでも活動報告をたよりに行ったが、当時の発掘技術の水準や調査日程から、十分な調査とは言いがたいが、氏の成果と意図を考え出来るだけ忠実に分析したが、以下のような結論に達した。

日野先生が報告した5×7間の講堂は、その柱間寸法が一定しておらず、多くのパターンを想定しなければならず苦慮したが、最終的には古代の地業の痕跡は認められず、しかも古代寺院の建物構造に合致しない部分が多く認められた。遺物の分析でも、寺院から出土する傾向、仏教的色彩が強い灯明皿・水柱・墨書土器が少ない点とやたらに緑釉陶器・灰釉陶器の出土比率が土師器に対して高いことが明らかにされた。そのために、古代寺院との結論に達しなかった。あえて寺院ではなく官衙関連遺構の中でも、国司館の考え方もあろうかと披露した次第である。多くの会員の方にその是非を問い、忌憚のない声を聞かせていただけたら幸いです。

キーワード：古代廃寺・相模国府・官衙関連遺構・国司館



神奈川県における古墳時代のカマドについて

一形態・構築材にみる地域差について

依田亮一・大上周三

私たちが日頃勤務する（財）かながわ考古学財団では、各時代毎に研究プロジェクトチームが結成され、共同研究の成果を毎年所内の研究紀要に公表している。その中で奈良・平安時代研究プロジェクトチームは、1997～99年の3ヶ年を費やして当該期の竪穴住居を集成し、住居に造り付けのカマドを形態・構築材・支脚等の属性から時期差および地域差について検討を行った。しかし、神奈川県内で竪穴住居にカマドが展開した前段の資料分析を行っていなかった経緯から、その考察にも自ずと限界があった。

そこで私たちは、古墳時代中～後期の遺存状況が比較的良好なカマド634事例を対象として、同様な視点から半世紀単位に時期的・地域的動向を観察した。その結果、Ⅳ期（7世紀中頃）を画期として、それまで様々な形態のカマドが全県的に分布するのに対し、特定の形態が地域的に偏在していく傾向を指摘した。

大化前代の土器は、旧国造領域単位でその生産・流通を司っていたとする見解がある一方で、当該期の遺構の属性分析からは、その地域差が必ずしも旧国造領域を示すものではないことが明らかとなった。この背景については、7世紀中頃という変革期が、編戸に伴う村落形成の実態を幾らかでも反映された結果ではないだろうかと推測した。

キーワード 古墳時代・カマド・地域差



中世の石塔における相模型の成立と展開

斎藤彦司

中世石塔の地域による分類については、川勝政太郎の関西形式と関東形式がある。当然の事ながら、鎌倉を中心として神奈川県下に分布する石塔類は、関東形式の典型とされている。しかし、川勝が関東形式の分布圏とした地域内においても、地域差が認められる。その地域差は、服部清道が板碑の分類において指摘したことと同様、使用された石材の違いによるものと考えられる。

鎌倉を中心に県下に分布する石塔類の多くは、西相模から切り出された、箱根山の火山活動によって生成された安山岩（小松石・伊豆石）を使用したものであり、共通した特徴を示すもので、相模型と呼ぶべきものである。言い換えると、西相模で産出する安山岩を使用して石塔を制作する石工集団があり、彼らは一定の様式的特徴を備えた石塔を供給していた。その石工集団は、日野一郎や前田元重が指摘するように、大和西大寺に関係する技術集団に属する石工で、律宗の鎌倉極楽寺開山の忍性の関東下向にしたがって東下し、彼らが、固い安山岩を加工する工具と技術を関東にもたらし、在地の石工に伝授したことにより、東国における石塔造立の隆盛をもたらした。彼らが石塔を供給した地域は、相模国全域、武蔵国南部、そして房総半島の東京湾側の地域であり、この分布は東国の水運を考える上でも格好の材料となろう。

キーワード 石塔・関東形式・相模型・安山岩・律宗

今年度の発表会・展示会

日程	発表会	展示会	会場	主催団体
◎6月17日(日)	横須賀考古学会研究発表会		横須賀市人文博物館	横須賀考古学会
◇7月20日～8月31日		特別展『相武国の古墳』	平塚市博物館	平塚市博物館
◇7月20日～9月2日		特別展『甦る大環濠集落』	横浜市歴史博物館	
◎8月26日(日)	第11回鎌倉市遺跡調査発表会		鎌倉市中央公民館	鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会
◇10月1日～31日		遺跡展『発掘された かながわの顔』	かながわ考古学財団展示室	かながわ考古学財団
◎10月13日(土)	第25回神奈川県遺跡調査研究発表会		平塚市中央公民館	神奈川県考古学会
◎10月14日(日)	かながわ考古学財団成果発表会 公開セミナー『原始の顔・古代の顔』		横浜市歴史博物館 同上	かながわ考古学財団
◇10月31日～11月5日		足もとに眠る歴史	東海大学文学部展示室	東海大学校地内遺跡調査団
◎11月4日(日)	三浦半島地区遺跡調査発表会		横須賀市人文博物館	横須賀考古学会
◇11月8日～21日		小田原市遺跡調査発表展示会	小田原市かもめ図書館(鴨宮)	小田原市教育委員会
◇11月10日～12月9日		巡回遺跡展『発掘されたかながわの顔』	秦野市桜土手古墳展示館	かながわ考古学財団
◎11月11日(日)	小田原市遺跡調査発表会		小田原市かもめ図書館(鴨宮)	小田原市教育委員会
◇11月13日～12月2日		企画展「東海道と藤沢宿」	藤沢市民ギャラリー	藤沢市教育委員会
◎11月17・18日(土・日)	シンポジウム『弥生後期のヒトの移動』		小田原市かもめ図書館(鴨宮)	西相模考古学研究会 小田原市教育委員会
◎12月2日(日)(午後)	第12回茅ヶ崎市遺跡調査発表会		茅ヶ崎市役所	茅ヶ崎市教育委員会 (財)茅ヶ崎市文化振興財団
◇12月8日～14日		第12回茅ヶ崎市遺跡調査発表展示会	茅ヶ崎市文化会館	茅ヶ崎市教育委員会 (財)茅ヶ崎市文化振興財団
◇1月29日～2月17日		第2回藤沢市遺跡調査速報展	藤沢市民ギャラリー	藤沢市教育委員会
◎2月10日(日)	第19回藤沢市遺跡調査発表会		藤沢市文化会館	湘南考古学同好会・藤沢市教育委員会
◇2月26日～3月24日		企画展「善行の遺跡」	藤沢市民ギャラリー	藤沢市教育委員会
◇2月		第15回伊勢原市考古資料展	伊勢原市中央公民館	伊勢原市教育委員会
◎2・3月頃	寒川町内遺跡発掘調査発表会		寒川町文化財学習センター	寒川町教育委員会

原稿の募集

『考古論叢神奈河』はみなさんで育てる会誌です。
考古学会に衝撃を与えるような論文も歓迎しますが、
身近にある資料の紹介や研究ノートも気軽に投稿して
ください。

第10集の締切りは、平成13年2月末日を予定してい
ます。ふるっての投稿をお待ちしています。

編集委員 大塚真弘・諏訪問順・田村良照・依田亮一
問い合わせ先 田村良照 ☎ 045-234-6977

考古かながわ 第21号

発行 神奈川県考古学会
発行日 2001年9月26日
編集者 岡本孝之・近藤英夫・安藤文一・
小林義典・渡辺 務
印刷 (有)湘南グッド
発行者 神奈川県考古学会会長 寺田兼方
〒251-0043
藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102
郵便振替 00240-9-71208